

# 第93回 中小企業景況調査報告書

1月～3月の実績と  
4月～6月の見通し

## ■ 今期調査の景況キーワード

前年同环比売上D I値は▲27.6で、前期調査時より全業種で7.8ポイント減少した。来期見通し売上D I値は▲47.2で、今期より19.6ポイントの減少を予測している。東日本大震災による間接的な被害が、地域経済に深刻な影響を及ぼし、業種業界を問わず深刻な経営が続いている。景気のキーワードとしては、「需要の停滞」「材料（商品）入手難」「材料単価の上昇」などが挙げられる。

■ 調査時点 平成23年3月31日

## ■ 対象業種

製造業 25社(20) 建設業 23社(21)  
卸売業 18社(16) 小売業 29社(22)  
サービス業 25社(25) 合計 120社(104)  
※( )内は回答企業数

■ 回答率 86.6%

## 概況

◆ 売上状況(前年同期比)では、売上D I値▲27.6を示し前期調査時より7.8ポイント減少した。業種別では卸売業で7.9ポイント、製造業5.0ポイント増加したが、小売業5.1ポイント、建設業21.3ポイント、サービス業で45.6ポイント減少した。来期見通しD I値は▲47.2で今期調査時より19.6ポイントの減少を予測している。

◆ 採算水準(前年同期比)では、D I値は▲38.0で、前期調査時より3.3ポイント悪化した。業種別では卸売業14.5ポイント、建設業で11.3ポイントと好転したが、小売業2.2ポイント、製造業8.0ポイント、サービス業で45.6ポイント減少した。来期見通しD I値は▲49.5で今期調査時より11.5ポイントの悪化を予測している。

◆ 仕入単価(前年同期比)では、D I値は▲35.6で、前期調査時より3.0ポイントと悪化した。業種別では小売業で48.0ポイント好転したが、製造業9.0ポイント、卸売業で11.3ポイント、建設業30.3ポイント、サービス業で45.5ポイント悪化した。来期見通しD I値は▲32.2で今期調査時より3.4ポイント好転を予測している。

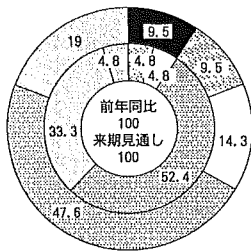
◆ 資金繰り(前年同期比)では、D I値は▲37.9で、前期調査時より7.2ポイント悪化した。業種別では、製造業で14.0ポイント好転したが、卸売業で10.8ポイント、小売業15.3ポイント、建設業28.4ポイント、サービス業で33.3ポイント悪化した。来期見通しD I値は▲50.5で今期調査時より12.6ポイントの悪化を予測している。

◆ 雇用人員(前年同期比)では、D I値は9.2で前期調査時より15.1ポイント過剰を示した。業種別では、サービス業で54.4ポイント、建設業34.8ポイント、卸売業12.5ポイント、小売業で9.6の過剰を示し、製造業で19.0ポイントの不足を示した。来期見通しD I値は6.8で今期調査時より2.4ポイントの不足を予測している。

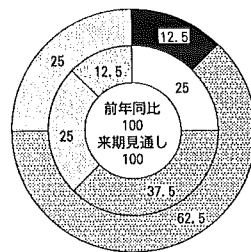
◆ 業界の状況(前年同期比)では、D I値▲70.2で、前期調査時より5.8ポイント悪化した。業種別では製造業で13.0ポイント好転したが、小売業4.7ポイント、建設業7.0ポイント、卸売業15.9ポイント、サービス業35.3ポイント悪化した。来期業況のD I値は▲70.2で、今期調査時と同数値を示している。

◆ 設備投資では、今期実施した企業は9.2%で、来期の設備投資を計画している企業も9.2%であった。

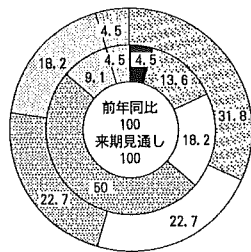
◆ 経営上の問題点としては、製造業では「需要の停滞」「製品（加工）単価の低下」「原材料単価の上昇」、建設業では、「請負単価の低下・上昇難」「官公需要の停滞」「民間需要の停滞」、卸売業では、「需要の停滞」「メーカーの進出による競争の激化」「販売単価の低下」「人件費以外の経費の増加」、小売業では、「消費者ニーズの変化」「購買力の流出」「販売単価の低下」、サービス業では、「需要の停滞」「利用者ニーズの変化」「利用料金の低下」「上昇難」となっている。



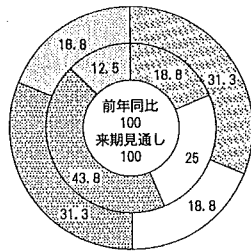
(単位：%)



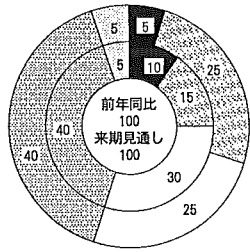
(単位：%)



(単位：%)



(単位：%)



(単位：%)

## ※業種別売上 (外円は前年同期比、内円は来期見通し)

### ▼ 建設業

かなり増加  
やや増加  
変わらない  
やや減少  
かなり減少  
回答なし

### ▼ サービス業

### ▼ 小売業

### ▼ 卸売業

### ▼ 製造業